

「学ぶ」ということ

3月は、卒業式、修了式のシーズンです。卒業式、修了式は、自分の「学び」を振り返り、次の「学び」の目標を定める大切な行事です。

生涯学習プラザを中心に市民講座を実施している「かわさき市民アカデミー」では、3月2日に修了式が行われました。

私は、この生涯学習財団で過ごしている中で、市民の皆さんの学ぶ姿を見て、自分の中の「学び」に対する思い込みを見直すということがありました。それは、講座を受講している皆さんは、自分の楽しみだけで学んでいるのではないということです。

最近、「君たちはどう生きるか」（吉野源三郎著）という本を読みました。その本の中で「学ぶ」ことについて、主人公のコペル君が、学校で勉強することが困難な友だちとの交流を叔父さんに報告して、叔父さんがコペル君に大切なことを語る場面があります。

「このような（貧困という問題を抱えている）世の中で、君のようになんの妨げもなく勉強ができ、自分の才能を思うままに延ばしてゆけるということが、どんなにありがたいことか、ということだ。（中略）君には、今何一つ、勉強を妨げるものはないじゃないか。人類が何万年の努力を以って積み上げたものは、どれでも、君の自由に取れるのだ。そうとすればー」

「そうとすればー」の後、叔父さんは語りません。自分でちゃんとわかるはずだということです。

かわさき市民アカデミーの修了者の方々がまとめられた本「楽しい学びの園で」を読ませていただくと、自分から「学ぶことは」、本当に楽しく、学習は自ら追究するものだということがよくわかります。でも、そればかりでなく、自分の「学び」を誰かのために生かすことで、「自分の人生を有意義にし、喜びをもたらす」ということに気づかされていくのです。（M. Y）

<カット>

叔父さんが、コペル君に伝えたかったこと。それは、私も、もう語るのをやめます。皆さんも、ちゃんとわかっているはずですから・・・。

3月5日山田 修正